

計 画 相 談 の 始 ま り

相談支援事業所に市役所から計画相談の依頼が入った。

市内で単身生活を送る、統合失調症で精神保健福祉手帳2級を所持する35歳の男性ということであった。まず本人が相談支援事業所に来所相談に来ることになった。

昨年まで母と2人暮らしだったが、その母を亡くし現在は生活保護を受給して単身生活、たまに派遣のバイトをしているが継続はしていないようである。

来所した際の本人の主訴は、

- ① 役所の障害福祉課と生活保護課から、福祉サービスを使うように言われた。
- ② 早く仕事に就いて、生活保護を脱出したい。
- ③ 今の借家の契約更新（1年後）までに兄と和解したい、継続して保証人になってほしい、とのことであった。

相談支援専門員は次に、本人の自宅を訪問して詳しく聞き取りを行うこととした。

相談受付票

紹介者がいる場合、必ず記入する。(所属・氏名) 様式2

相談日 令和4年 7月 4日

受付 No.	相談方法 (外来) 電話、文書、ファクシミリ、訪問
氏名 ちば よしお 千葉 良夫	経由機関 ○○市役所障害福祉課・生活保護課 担当者 ○○氏 ○○氏

性別 (男)・女 生年月日 昭和62年 4月 5日 (35才)

障害種別 種 級 障害名:
障害者手帳 (身障手帳 種 級) 療育手帳 () 精神保健福祉手帳 (2級)

現住所 ○○市○○町○○123-4
電話 ○○○-○○○○-○○○○ FAX

正確に聴き取り、間違えなく記載する。(パソコンで上書きする際のデータの消し忘れに注意) 手帳などはコピーをいただいとよい。

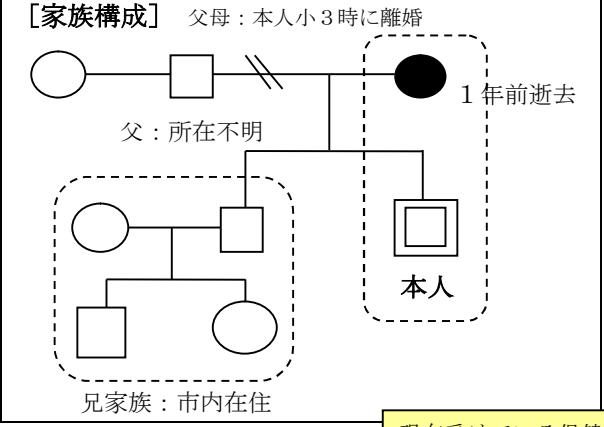
相談者氏名 本人	その他の連絡先 氏名 千葉 成平 (兄)
TEL	住所 ○○市△△町567-8
FAX	TEL ○○○-○○○○ FAX

居住地や病歴など、今後の支援を組み立てる上で必要と思われる情報があれば記載する。

家 族	続柄	氏 名	年齢	職業・学校	同居 別居	特記
	本人	千葉 良夫	35	単発の派遣バイト		
父	千葉 和昭		(所在不明)	別		
兄	千葉 成平	40	トラックドライバー	別		

相談内容

- 役所の障害福祉課と生活保護課から、福祉サービスを使うように言われた。
- 「早く仕事に就いて、生活保護を脱出したい」
- 今の借家の契約更新 (1年後) までに兄と和解したい、継続して保証人になってほしい。



なるべく簡潔に、当事者の言葉でわかりやすく記入すると良い。相談内容が多岐にわたる場合には、主訴を中心に記載し、その他は概要のみまとめて記入する。

現在受けているサービス

- 生活保護受給中
- 自立支援医療 (精神通院)

現在受けている保健・医療・福祉などのサービスについて記入する。

対応者所見・その他の情報
(市役所障害課○○氏からの情報)

- 統合失調症
- 過去の不調時には近隣住民との口論などもあり20代後半に3カ月の入院をした。
- 母の死後、兄とは遺品の整理やお墓に関して口論になり、本人は兄から連絡してくるなど言われている。
- 本人は高卒後に就労経験もあったが長続きせず、現在は生活保護。たまに派遣バイトをしているが続かない。

対応状況

- 自宅を訪問、アセスメントと希望の聞き取りを実施予定 (7/5)
- サービス等利用計画書作成

今後の流れ、個人情報の管理や共有、関係機関との連携の可能性、次回の対応予定などを記入する。

背景に潜んでいそうな課題や可能性などについて、相談支援専門員の視点で記入する。聴き取った情報のうち、計画作成上留意すべき重要な内容について記載する。

対応職員 坂本 大樹

訪問票(一次アセスメント票)の作成について

受付 No. 1 氏 名：千葉 良夫 対応職員：坂本 大樹	①アセスメント対応状況 ■家庭訪問 (7月 5日) (月 日) (月 日) ■外 来 (7月 4日) (月 日) (月 日) <input type="checkbox"/> 電話等 (月 日) (月 日) (月 日)													
障 害 者 本 人 の 状 況	②生活歴 ・〇〇市で出生。小3で両親が離婚、本人と兄を母が引き取った。本人は中学2年時から不登校となり、休みがちのまま中学校は卒業した。 ・中卒後に土木関係に就職したが続かずその後も職を転々とした、17歳で定時制高校に入学、不眠や気分の浮き沈みがあり21歳で精神科を初診。高校は4年で卒業。 ・高卒後もスーパー・酒屋・倉庫等で務めたがいずれも1年程度で離職。通院も中断した。その後は派遣のバイトを転々としている。 ・28歳「近所の住民が自宅を覗いている」と騒ぎ、相手の家に押しかけて言い合いになり、(世帯を持ち離れて暮らしていた)兄に連れられて受診し3カ月間入院した。以降通院は続いている、入院はない。 ・退院後、病院の勧めでデイケアや就労継続支援B型を利用するも、どちらも数日で行かなくなった。一方でハローワークを通じて一般の職業訓練(パソコン教室：3カ月)に通った。訓練修了後は職には就かなかった。派遣バイトを続けた。 ・本人が30歳頃に、母が高齢で仕事を続けられなくなり、母子で生活保護の受給を開始した。その後母が介護保険のサービスを利用し始め、自身も気分の落ち込み・不眠・また怒りやすくなり、母のケアマネやヘルパーを怒鳴る等の言動があった。 ・34歳(1年前)母が逝去、単身となった。													
	③障害者手帳 <input type="checkbox"/> 身障手帳 (種 級) <input type="checkbox"/> 療育手帳 () <input checked="" type="checkbox"/> 精神保健福祉手帳 (2級) <input type="checkbox"/> 取得していない	年金 <input type="checkbox"/> 障害基礎年金 級 <input type="checkbox"/> 障害厚生年金 級 <input type="checkbox"/> 国民年金 <input type="checkbox"/> その他年金 ()												
	生活保護	受給 <input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし												
	障害支援区分	<input type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/> 区分1 <input type="checkbox"/> 区分2 <input type="checkbox"/> 区分3 <input type="checkbox"/> 区分4 <input type="checkbox"/> 区分5 <input type="checkbox"/> 区分6 <input checked="" type="checkbox"/> 未認定												
	④病歴 ・ 障害歴	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 25%;">年 月</th> <th style="width: 50%;">事 項</th> <th style="width: 25%;">年 月</th> <th style="width: 25%;">事 項</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H20(21歳)</td> <td>統合失調症</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table>	年 月	事 項	年 月	事 項	H20(21歳)	統合失調症						
	年 月	事 項	年 月	事 項										
	H20(21歳)	統合失調症												
	⑤医療機関利用状況 〔現在の受診状況,受診科目,頻度,主治医,どの疾患での受診〕 市場町病院(精神科) 森田Dr:4週に1回通院 ※服薬状況(服薬名・量) エビリファイ(3)3T、サイレース(2)1T/眠前 ラントセン(0.5)1T、ソラナックス(0.4)1T/夕方時													
	⑥医療保険 被保険者(本人・家族) <input type="checkbox"/> 国民健康保険 <input type="checkbox"/> 健康保険 記号 番号													
⑦障害者医療 : <input type="checkbox"/> 更生医療 <input type="checkbox"/> 育成医療 <input checked="" type="checkbox"/> 精神通院医療 <input type="checkbox"/> その他()														
⑧現在使用している福祉用具 : なし														
⑨生活状況 〔普通の1日の流れ〕 ※週間生活表が必要な場合は別紙に記入 本人 ・派遣のバイト(倉庫作業や製造ライン)を週に1~2回(その日以外は昼過ぎに起きる) ・人間関係が苦手で被害的思考に陥ったり、イライラしたり、社員と上手くいかず長続きはしない。 ・仕事がなく自宅にいと、自分が一人前でないことにいら立ち、また近隣住民が自分を見下して物音を立てていると被害的にとらえ、飲酒したり、悶々と過ごす。生活リズムも崩れやすい。 介護者 母が存命中は本人宅にも顔を出していたが、母が亡くなって、遺品の整理の件で本人と口論になってからは「自分の所に連絡をしないでくれ」と、本人に伝えた。														

<記載上の留意点>

- ① **アセスメント対応状況** : 対応状況を■に塗りつぶすかレ印でチェックし、対応日や対応者等も記載する。
- ② **生活歴** : 利用者ご本人の簡単な経歴や現在の暮らしぶり（家族や近隣との人間関係・経済状況など）について記載する。ご本人と面識のない第三者が読んだ場合でも、ある程度ご本人のことをイメージできるような内容が望ましい。
- ③ **障害者手帳** : 等級・取得日・手帳番号を正確に記載する。コピーをいただいくことが望ましい。
- ④ **病歴・障害歴** : 今までに罹ったことのある病気や障害により受診した初診日、手帳取得日を記載する。
- ⑤ **医療機関利用状況** : 現在通院している医療機関があれば記載し、主治医、疾病名、受診頻度、服薬状況について記載する。
- ⑥ **医療保険** : 国民健康保険なのか社会保険なのかきちんと確認する。コピーをいただいくことが望ましい。
- ⑦ **障害者医療** : 自立支援医療制度（更生医療、育成医療、精神通院医療）や重度心身障害者（児）医療費助成制度等を利用していれば記載する。
更生医療 : 身体障害者福祉法第4条に規定する身体障害者で、その障害を除去・軽減する手術等の治療によって確実に効果が期待できるものに対して提供される、更生のために必要な自立支援医療費の支給を行うもの。
育成医療 : 児童福祉法第4条第2項に規定する障害児（障害に係る医療を行わないときは将来障害を残すと認められる疾患がある児童を含む。）で、その身体障害を除去、軽減する手術等の治療によって確実に効果が期待できる者に対して提供される、生活の能力を得るために必要な自立支援医療費の支給を行うもの。
精神通院医療 : 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律第5条に規定する統合失調症、精神作用物質による急性中毒、その他の精神疾患（てんかんを含む。）を有する者で、通院による精神医療を継続的に要する病状にある者に対し、その通院医療に係る自立支援医療費の支給を行うもの。
- ⑧ **現在使用している福祉用具** : 医療機器も含め、使用している道具があればその名称及び使用開始年月を記載する。
- ⑨ **生活状況** : ご本人および介護者の通常の1日の生活の流れを記載する。時間軸を活用して表にしてもよい。なお、日によって大きく通常の生活パターンが違う場合には、別紙にて週間生活表を作成する。基本的に、睡眠・食事・排泄などの基本的な生活習慣状況およびそれ以外の活動状況（日中活動・余暇等）がわかるように記載する。

利用者の状況

1 生活基盤に関する領域

項目	チェック内容			⑬本人の能力と制限 気づいたこと 本人の環境と制限 気づいたこと
	⑩実態	⑪希望	⑫援助の要・不要	
経済環境	生活保護	あり	要	「働いて生活保護を脱出したい」と。障害年金は納付が足りずに受給できない。
住環境	戸建て借家	あり	要	来年契約更新なので、兄に保証人になってもらいたいが「連絡するな」と言われ心配。

2 健康に関する領域

項目	チェック内容			本人の能力と制限 気づいたこと 本人の環境と制限 気づいたこと
	実態	希望	援助の要・不要	
服薬管理	自立	なし	不要	定時薬(就前)はほぼ飲める。頓服薬はイライラすると忘れてしまう事があるが必要なことは分かっている。
食事管理	普通食	なし	不要	
病気への留意	統合失調症	あり	要	前の主治医が増薬を提案してきたが、今の主治医は現在の量でいいと言っている。最近では体重増加と高血圧が悩み。
体力	問題なし	なし	不要	

3 日常生活に関する領域

項目	チェック内容			本人の能力と制限 気づいたこと 本人の環境と制限 気づいたこと
	実態	希望	援助の要・不要	
衣類着脱 (上衣) (ズボン等)	自立	なし	不要	
整容行為	自立	なし	不要	1000円カットに行く。
食事行為	自立	なし	不要	
排泄行為 (排尿) (排便)	自立	なし	不要	
睡眠	眠剤服用	あり	要	気分がたかぶると眠れない、頓服を飲む時間が遅くなって翌日に起きれない。
入浴行為	自立	なし	不要	イライラ時は入浴しないで寝てしまう。
ベッドへ移乗 (床) (車いす等)	自立	なし	不要	
屋内移動	自立	なし	不要	
調理(後かたづけを含む)	自立	あり	要	炊飯・簡単な炒め物・麺類程度はできる、レパートリーはワンパターンになる。
洗濯	たたむ・しまうが苦手	なし	要	洗濯して干すまではするが、室内に干せばなしの状態が続いている。
掃除	苦手	なし	要	定期的には行っていない、相談員の訪問日は掃除をしたそうだが散らかっていた。
整理・整頓	苦手	なし	要	自身の物を見られたり、触られるのは嫌。
ベットメーカーキング	自立	なし	要	シーツの交換や洗濯などはこの1年していない、布団も干していない。

書類の整理	苦手	なし	要	手続書類等を失くしたり、手続きの締め切りを過ぎてしまう事がある。
買物	自立	なし	不要	
衣類の補修	苦手	なし	不要	
育児	不要	なし	不要	

4 コミュニケーション・スキルに関する領域

項目	チェック内容			本人の能力と制限 気づいたこと 本人の環境と制限 気づいたこと
	実態	希望	援助の要・不要	
意思表示の手段	言語で可	なし	要	劣等感や被害的思考に陥った時、うまく対処できずにイライラする。
意思伝達の程度	本人の表現が分かりにくい	あり	要	(上記の)イライラ時に、本心は誰かと話して解決したいが、周囲からはピリピリと映るため近寄りがたい。
他者からの意思伝達の理解	被害的にとらえる傾向	なし	要	「皆が自分を馬鹿にしている」「(相手の)偉そうな態度は自分への当てつけだ」と、敏感に自分に関連付けて考えやすい。
情報伝達機器の使用	スマホ使用	なし	不要	

5 社会生活技能に関する領域

項目	チェック内容			本人の能力と制限 気づいたこと 本人の環境と制限 気づいたこと
	実態	希望	援助の要・不要	
対人関係	交友関係は限定的	なし	要	職業訓練で知り合った当事者仲間とは連絡を取り合っている、煩わしい時もあるが励ましあっている。(交友関係はその数名)
屋外移動 (近距離移動) (遠距離移動)	自立	なし	不要	人と距離が近い人込みや電車は苦手だが、こらえたり、途中駅で降りたりして対処している。
金銭管理	自立	なし	不要	計画的に使えている。
危機管理	支援機関にSOS出せる	あり	要	役所には電話の相談も入るが、昂(たかぶ)っている時は、真意をくみ取りづらい。

6 社会参加に関する領域

項目	チェック内容			本人の能力と制限 気づいたこと 本人の環境と制限 気づいたこと
	実態	希望	援助の要・不要	
レクリエーション等	当事者仲間と外出	あり	不要	・史跡めぐり、 ・亡くなった仲間の墓参り、など。
趣味	歴史ネット	あり	不要	・図書館で借りて日本史人物伝を読む、 ・ネットでは主にアニメ。
旅行	分からない	あり	不要	伊勢神宮や出雲大社に行ってみたが、人込みは無理だと思う。
当事者団体の活動	分からない	なし	要	病院デイケアや地域活動支援センターを見学したが、利用者がのんびりしていて物足りなかった。話し合いがあればいい。
各種社会的活動	分からない	なし	不要	

7 教育・就労に関する領域

項目	チェック内容			本人の能力と制限 本人の環境と制限
	実態	希望	援助の要・不要	
教育	定時制高校卒	なし	不要	気づいたこと 気づいたこと
就労	派遣バイト (週1~2日)	なし	要	気づいたこと 気づいたこと

8 家族支援に関する領域

項目	チェック内容			本人の能力と制限 本人の環境と制限
	実態	希望	援助の要・不要	
家族 情報提供 介護負担軽減 家族関係調整 社会参加	兄から「連絡するな」と言われている	あり	要	気づいたこと 気づいたこと

⑭本人の要望・希望する暮らし

- ・仕事を続けて生活保護を脱出したい。
- ・兄と連絡を取れるようになりたい。(保証人に続けてなってほしい)
- ・
- ・

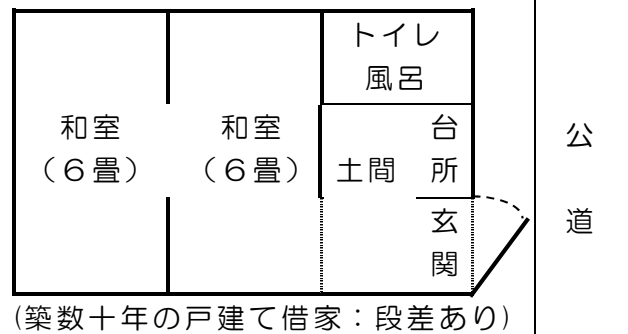
⑮家族の要望・希望する暮らし

- ・しっかり生活してくれれば、保証人は継続して引き受けてもいい。
- ・フルタイムで生活保護を脱出、とまでは高望みはしていない。

⑯関係職種からの情報

- (市障害福祉課より)
- ・「仕事が上手くいかない」「近隣住民が自分を馬鹿にしている」等の相談を市の担当に電話で相談してくることが毎週のようにある。
 - ・(〇〇氏)福祉サービスを使って、精神面の安定、就労への準備を整えてほしいと、本人に提案した。

⑰〔家屋の見取り図〕 □持ち家 ■その他



⑱担当者所見(注目すべき点、注意すべき点を含む)

--

<記載上の留意点>

- ⑩ **実態**：現状について簡潔に記載。自立・一部自立・全介助・半介助・見守り・可能・不可能などの言葉で示すが、「～については課題あり」など現状を簡潔に記載することもある。より具体的な点や特記事項があれば⑬の欄に具体的に記載しておくといよい。
- ⑪ **希望**：当事者が支援を受けることや改善することなど、何らかの関わりを希望しているか否かについて記載する。なお、通常「あり」「なし」で記載するが、「あり」の場合には誰が希望しているのか明記しておくといよい。あわせて、⑬の欄にどのような希望があるか、当事者の言葉として記載しておくといよい、ニーズが拾いやすくなる。
- ⑫ **援助の要・不要**：相談支援専門員が実態や希望を鑑みて、実際に何らかの支援（サービス等の調整）が必要か否かについて判断する。希望がなくても要としたり、当事者の希望があっても不要とする場合もある。
- ⑬ **本人の能力と制限・気づいたこと等**：先にも触れた通り、より具体的な状態を記載したり、相談支援専門員が気になることを記載するなど、備考欄として活用するとよい。この欄により詳細な記述があると計画を作成する際に大変役に立つのでなるべく記載するよう心がける。
- ⑭ **本人の要望・希望する暮らし**⑮ **家族の要望・希望する暮らし**：この欄もサービス等利用計画書を作成する上でとても大切な部分となる。アセスメント票の各項目の⑬に記載されたニーズを拾い上げ、一つ一つ確認しながら希望を尋ね返すとよい。また、全てのニーズを拾い上げ切れていないことも想定されるため、最終的に「これ以外にも希望があれば…」というような尋ね方をすると良い。なるべく当事者の言葉を使って記載するが、ご本人が言語で意思表示ができない場合や推測に基づき記載する場合には、「どのような状況から、誰がどのような判断をしてそのような推測をするに至ったか」など具体的に記載すると良い。
- ⑯ **関係職種からの情報**：この欄は2次アセスメントとして、教育・保健・福祉など、ご本人やご家族に関する情報を聴き取った際に記載する。当事者からの聴き取りでは実態がつかみきれなかったことや専門家の見解等を確認する必要がある場合には必ず実施した方がよい。記載にあたっては「どの機関の誰からいつ得た情報なのか」を明記しておく必要がある。なお、社会資源の利用についてのアセスメント（サービス利用が可能か否かの確認）をした際の情報も記載しておくといよい。
- ⑰ **家屋の見取り図**：家庭訪問をした際の住居の間取りや周辺の住環境などを記載する。特に居宅介護の利用や住宅改修が見込まれる場合、日中活動等を検討する際の公共交通機関へのアクセス、送迎利用の可否などを判断する際には重要な情報となるため、トイレ、浴室位置の形状、玄関、道路までのアクセスや段差等はなるべく詳細な記載を心がける。
- ⑱ **担当者所見**：サービス等利用計画書、アセスメント票は関係機関が連携する上でとても大切な情報共有ツールとなるため、現状や課題、今後の方向性などを簡潔にまとめておく必要がある。相談支援専門員が一連のアセスメントを通して留意したほうがよい点などを相談支援専門員の視点からまとめて記載し、支援の方向性についてまで触れられればなおよい。特に、サービス等利用計画書（1）の「相談支援専門員の支援方針」の欄を意識して記載すると良い。

演習<ケアマネジメントプロセスの実践>ワークシート

① 本人像の把握「千葉良夫さんってこんな人」

② ニーズの抽出

③ 考えられる手立てや資源